

2025年4月号(No.24)

多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>



『チューリップ』 荒井真紀子 小学館(E子)
『はるの くさばなあそび』
大久保茂徳監修 ひさかたチャイルド(470円)



4月23日は子ども読書の日。

ご家族とお友だちと、図書館でもぜひ、
お気に入りの一冊をみつてくださいね♪

図書館はあかちゃんからお年寄りまで
どなたでも無料でご利用いただけます。
お探しの本、調べもの相談など、
お気軽に司書におたずねください！

多気図書館

4月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 おはなし会
6	7	8	9	10	11 おはなし おもちや	12 おはなし ほけつこ
13	14	15	16	17	18 赤ちゃん おはなし 会	19
20	21	22	23	24	25	26 おはなし ほけつこ
27	28	29	30 整理日	おはなし会 10:30~		

勢和図書館

4月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 おはなし会 (0歳)	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12 おはなし会
13 ほんと カフェ	14	15	16 おはなし会 (1~3歳)	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 おはなし会
27	28 整理日	29	30	おはなし会 10:30~		

ブックスタート(おひさま) 4/25(金) 10:00~

イベント紹介

・ほんとカフェ
と き: 4月13日(日)
13:00~16:00
コラボ: チムニーサンドさん
B's shopさん
お気に入りの本、
珈琲とサンドイッチを手に
春のゆとりの丘散策も
おすすめです♪

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」
か「seiwallib」で検索



～コーナー紹介～

●手に取ってみよう！新書まつり
いろいろなジャンルの面白い新書がたくさん。
普段なかなか新書は手に取らないという方。ぜひ
この機会に！

本、図書館のプチ知識(PART1)

新書とは？
B6判よりもやや小型で、入門的教養書や
ノンフィクションなどを収めた書。(『広辞苑
第7版より』)新しい本という意味では
ありませんよ。

4月のおすすめ本



『古代視覚文化を巡る旅 原初の風景と信仰のアイコン』

玉田俊郎：著 中里和人・松田真生：写真 FUJIGOLAND (291頁)

デザインの専門家・玉田俊郎さんが、二人の写真家 中里和人さん・松田真生さんとともに
古代視覚文化を巡る旅へ。万葉集・記紀等の文献をひもとく、日本の原初の風景を読み解い
ていきます。古代へのロマンあふれる一冊です。多気町の風景も多く紹介されています！

『読み終えた瞬間、空が美しく見える気象のはなし』

荒木健太郎：著 ダイヤモンド社 (451頁)

人間が生きていくために気象は重要なもの。日常的にチェックしますよね。でもそれ
以外にも、美しい空の現象。気象学者たちの魅力的なエピソードなど、空は毎日いろんな
表情を見せてくれます。ふっと空を見上げてみませんか？
毎日変化する空の面白さに気づかせてくれる一冊です。

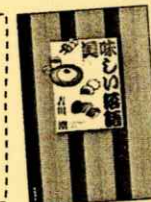


『もういちど育てる庭園鑑』 良原リエ：著 KTC中央出版 (626.9円)

野菜の葉や根、芯などをもう一度育てるリボーン ベジタブル(reborn vegetables)、
再生栽培。略してリボベジ。
植物を育てる楽しさを、生活に取り入れてみませんか？

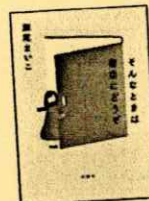
『美味しい落語』 吉川潮：著 飯塚書店 (779.1円)

落語の「時そば」を聞くと、そばが食べたくなる！そこにそばは無いのに、あるように
見えてくる。さすがプロの落語家！落語家さんによって、その美味しさも変わるようです。
落語にはそば以外にもこんなに多くの美味しそうな食べものが登場するのですね。生で
聞きたくなる！そしてその帰りに食べたくなる！そんな一冊です。



『そんなときは書店にどうぞ』 瀬尾まいこ：著 水鈴社 (914.6円)

現在、多くの書店が苦境に立たされている、ということは聞き知っていると思います。
そんな書店を救おうと書かれたこのエッセイ。著者の、書店に対する熱い思いが込められて
います。今まで書かれた著書すべてが読みたくなくなり、思わず笑ってしまうような温かい仕上
がりになっています。瀬尾まいこさんは、想像していたよりもかなり面白い方だった！



『桜が散っても』 森沢明夫：著 幻冬舎 (F913.6円)

桑畑村。自然豊かなその村に魅入られ、足しげく訪れる忠彦。しかしその地にリゾート開発
の影が。家族とともに小さくも温かかった忠彦の生活が大きく変わっていく！

自分の思いを貫く忠彦。そのために自分たちを捨てたと思う家族。だがその奥には家族への
深い愛が・・・。

